



暑い夏に負けないように穂肥で後期栄養を確保しましょう！

- 新潟地方気象台の「3か月予報」では、7～9月の気温は平年より高くなる見込みです。
- 夏の異常気象に負けないよう、**穂肥診断**を行い、**生育状況に応じた穂肥を施用**しましょう！
- 斑点米被害を防ぐため、**畦畔・水田内の除草と適期防除でカメムシ類を退治**しましょう！

1 出穂予想と穂肥時期

- 今後高温が予想されていることから、出穂期は**平年よりも早いと推測**されます。
- 最新の生育状況や出穂期予想は、十日町普及センターHPの稲作生育速報に掲載しています（7月8日、21日、27日、30日の夕方に発行予定。左記QRコードか下記URLを確認）
URL：https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/tokamachi_nogyo/suito.html

稲作生育速報HP



表1 出穂期予想※から見た穂肥施用時期のめやす（6月30日時点）

移植時期 (標高)	品種	出穂期予想	平年比(日)	穂肥施用時期のめやす	
				1回目(出穂期前の日数)	2回目(出穂期前の日数)
5月中旬植 (100m~200m)	五百万石	7月20日	やや早(-2)	6月30日(-20日)	7月8日(-12日)
	こがねもち	7月26日		7月8日(-18日)	7月16日(-10日)
	コシヒカリ	8月1日		7月14日(-18日)	7月22日(-10日)
5月下旬植 (300m~500m)	コシヒカリ	8月7日		7月20日(-18日)	7月28日(-10日)
	にじのきらめき	8月8日		7月9日(-30日)	7月25日(-14日)
	新之助	8月9日		7月19日(-21日)	7月28日(-12日)

※ 農業普及指導センターの調査ほのデータを用いて推測。

2 穂肥の考え方(コシヒカリ)

- 近年、異常高温と**出穂期以降の栄養不足に起因する品質低下**が増加しています。
- 後期栄養を確保するため、**分施肥系では2回目の穂肥は確実に施用**しましょう(表2)。
- 異常高温等で**葉色が低下した時は、分施肥系、全量基肥とも追加で穂肥を施用**しましょう。
- 穂肥の施用時期は、幼穂の長さや止葉の出方を確認して判断してください(表3)。

表2 穂肥の考え方

目的	施用時期 (出穂前日数)	分施肥系の場合		全量基肥の場合
収量向上 (籾数確保)	18~15日前	1回目	幼穂形成期の草丈と葉色から判断(図1)	—
品質向上	10日前	2回目	確実に施用	出穂10日前頃の 葉色が薄い場合は追加施用
	3日前	3回目	2回目散布後も葉色が薄い場合は施用	※有機50%入り全量基肥肥料は、葉色がさめやすいので注意

表3 出穂前日数の確認方法

出穂前日数	24日	20日	18日	12日	10日
幼穂長(cm)	0.1	0.4	1.0	4.0~6.0	8.0~10.0

幼穂形成期(24日前)

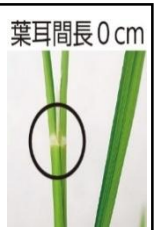
[幼穂長を確認]

・18日前は約1cm



[止葉の出方を確認]

・止葉の先端が出始めたら約18日前
・止葉とその下の葉の葉耳が並ぶ(葉耳間長0cm)と約10日前



3 穂肥診断 (コシヒカリ)

分施肥系の場合

- (1) 1回目穂肥 (出穂 18~15 日前)
 - 幼穂形成期の草丈と葉色から、穂肥量と施用時期を判断**しましょう。
 - 稲姿のめやすは、草丈 80cm 以下、葉色 (SPAD 値) 33 以下です (図 1)。

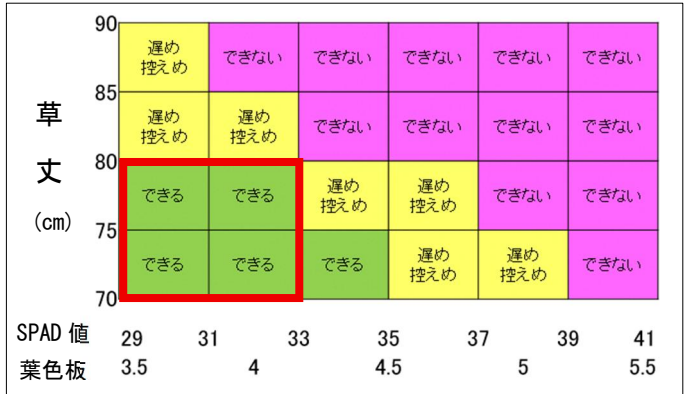


図 1 草丈と葉色における 1 回目穂肥施用めやす

- (2) 2回目穂肥 (出穂 10 日前)
 - 基準量 (窒素成分 1.0~1.5kg/10a) を確実に施用**しましょう。出穂期 10 日前以降の穂肥は節間伸長に影響しません (図 2)。
 - ※施用時の**葉色 (SPAD 値) が 32 を下回っている場合は**、今後も高温が予想されるため、**窒素成分 2.0kg を上限に、確実に施用**しましょう。

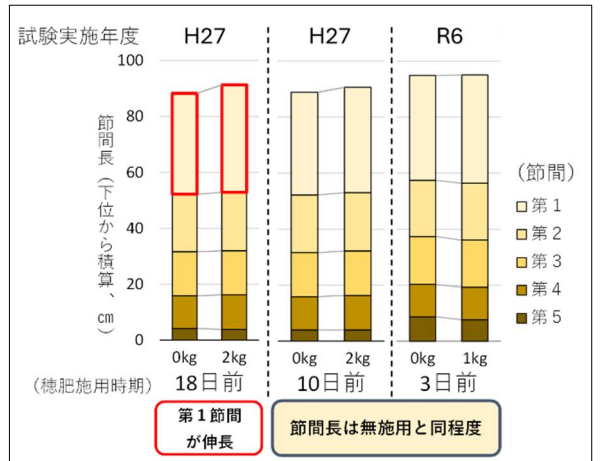


図 2 時期別の穂肥による節間長への影響 (作物研究センター)

表 4 穂肥施用例 (分施)

	出穂前日数 (日) ※	窒素成分量 (kg/10a)
1回目	18~15	0.7~1.2
2回目	10	1.0~2.0

※有機質の割合が 50%以上の肥料は 1~2日早く追肥!

出穂期 10 日前からは下位節間の伸長に影響しないね!



分施肥系、全量基肥共通

- (3) **葉色低下時の追加穂肥について** (分施肥系の 3 回目、全量基肥での追肥)
 - 葉色が極端に低下した場合や、2 回目穂肥を施用しても葉色が薄い場合には、生育診断をしたうえで追肥**しましょう (表 5)。

異常高温時は全量基肥でも追加穂肥が必要!

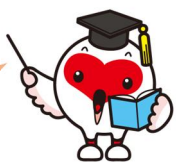


表 5 葉色低下時の追加穂肥のめやす

	施肥体系				判断時期と葉色のめやす	施用時期 施用量のめやす
	基肥	穂肥①	穂肥②	穂肥③		
分施肥系	化学肥料				出穂期 3 日前 葉色 (SPAD 値) が 31 以下	出穂期 3 日前 窒素成分 1 kg/10a が 上限
	有機 50% 肥料				出穂期 6 日前 葉色 (SPAD 値) が 33 以下	''
	有機 50% 肥料			有機 100% 肥料	標準的な地力のほ場 出穂期 6 日前 葉色 (SPAD 値) が 33 以下 低地力ほ場 幼穂形成期 葉色 (SPAD 値) が 31 未満	出穂期 6 ~ 3 日前 窒素成分 1 kg/10a 出穂期 6 ~ 3 日前 窒素成分 2 kg/10a
全量基肥	施肥体系				判断時期 葉色のめやす	施用時期 施用量のめやす
	基肥	追加穂肥				
	化学肥料				出穂期の葉色が 32~33 を下回ると予想される場合	出穂期 10 日前 窒素成分 1 kg/10a
有機 50% 肥料				有機 100% 肥料	出穂期 10 日前頃 葉色 (SPAD 値) が 30 以下	出穂期 10 ~ 5 日前 窒素成分 2 kg/10a

4 水管理（出穂期1か月前～登熟期）～飽水管理で土の水分を保ち品質向上！

(1) 出穂期1か月前

○**出穂期1か月前には中干しを終了し、浅水の間断かん水で、**稲を水に慣らしてから徐々に**飽水管理に移行**します（図3）。

間断かん水

湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す。

飽水管理

水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったらかん水する。

(2) 出穂期～登熟期

○出穂期は生育期間で最も水を必要とする時期です。

○**出穂期から25日間（高温の場合30日間）は土が湿った状態を保ち（飽水管理）、**根の活力を維持しましょう。

※フェーン現象等、**高温と乾燥した強風が続く場合は、速やかにかん水**し、乾燥による稲の障害を防いでください。

※高温が続く場合には、可能な限りこまめに水の更新を行いましょう。

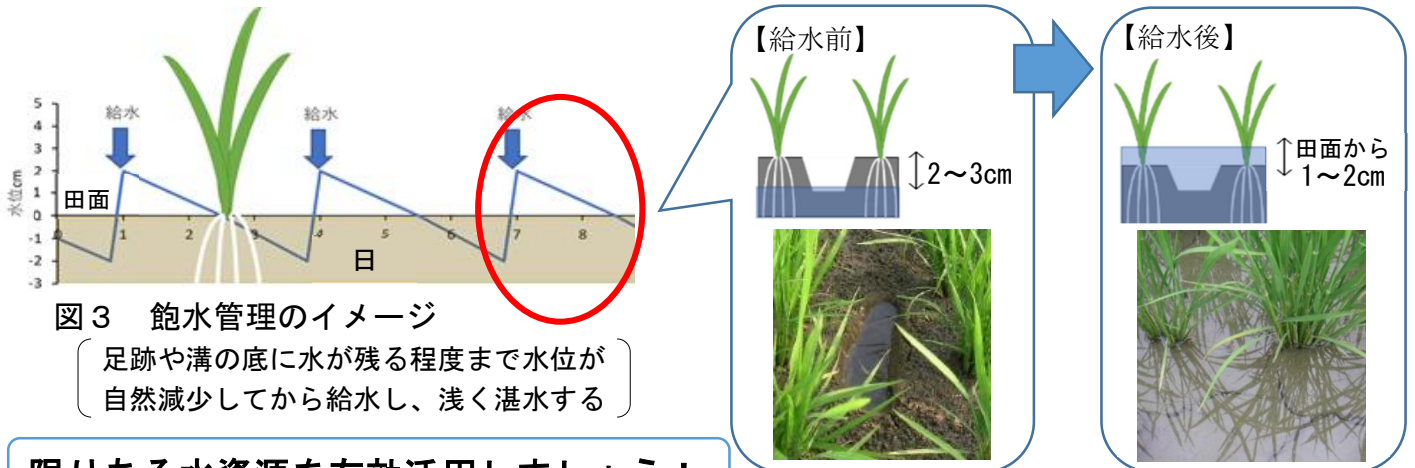


図3 飽水管理のイメージ

〔足跡や溝の底に水が残る程度まで水位が自然減少してから給水し、浅く湛水する〕

限りある水資源を有効活用しましょう！

5 斑点米対策（カメムシ防除）

適期防除で斑点米カメムシ類を退治しましょう！

(1) 雑草管理

○畦畔の草刈りは3週間程度の間隔で行い、カメムシ類が好む**イネ科の雑草が穂をつけないよう**にしましょう。

○水田内のヒエ、ホタルイは斑点米カメムシ類を誘引するため、**水田内除草も徹底**しましょう。

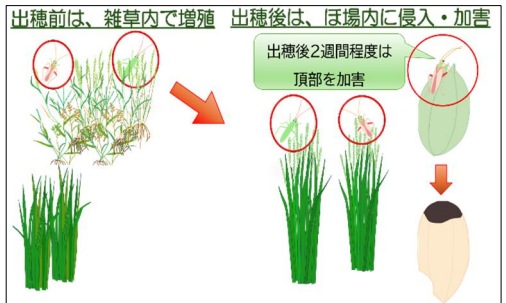


図4 斑点米カメムシ類の生態
(新潟県斑点米被害対策パンフレットより)

(2) 適期薬剤防除

○出穂後は雑草内で繁殖した斑点米カメムシ類が、圃場内に侵入して加害します（図4）。

○**斑点米の被害リスクは、出穂期が防除適期からズレるほど高くなるため、出穂期（ほ場内の5割が出穂した日）を基準に、**薬剤の剤型に応じて**散布時期を決定**しましょう（表6）。

○極早生品種等、**共同防除実施日よりも出穂期が10日以上早い場合は、共同防除前に防除を実施**しましょう。

**昨年は斑点米被害が多発！
今年は斑点米カメムシ類にうまい汁を吸わせない！**



表6 薬剤の散布適期（1回防除の場合）

必ず出穂状況を確認しましょう。

粒剤	出穂期～出穂期7日後
粉・液剤	出穂期3日後頃（穂揃い期）～出穂期7日後

注 カメムシ類の種類や使用する薬剤によっては2回目の防除が必要な場合があります。